

『きみのいたばしょ』写真スタジオネーブル 文池田伸

きみのいたばしょ おかあさんのおなか。
すべてのおかあさんは じぶんのおなかに、
きみを見ごもった。

絵:ココセ・ジュンジ

中央階段横
本箱に展示

ここできみは おかあさんのたいおんとおなじ

あったかい水につつまれて、めをつむり、
なにもきにせず、すこしずつおおきくなるだけでよかった。

おかあさんはむじょうけんできみを愛し、うけいれ
ぶじにうまれてきてねとまいにち祈った

またひとつ、旅がはじまるよ ほら、よくみてごらん。

みんなのかおやかたちがちがうように

きみたちはうまれるまえからおなじじゃない。

きみはうまれるまえから、たったひとりのきみなんだ。

もしきみのまわりに おなかのおおきなおかあさんがいたら
さわってもいい?ときいてごらん。

「いいよ」といわれたら、てのひらをそとあててみるといい。

そこに生まれるまえのきみがいる。

きみとおなじ、たったひとりのひとがいる。

おかあさんのおなかのなかのきみを

むじょうけんに愛している。 きみとぼくは、愛のひと。

いいかいきみは、愛のリレーのランナーだ。

じぶんのからだや、ゆめや、かそくをだいに想うように
愛のバトンをたいせつに、きみのこどもにわたすんだ。

うまれてくれて、ありがとう。

いごこちのよいこのばしょからそとにでるとき、

きゅうくつなくらいみちをぬけながら

きみはなにを思っただろう。 ワクワクした?

それともこのままいたかった? おぼえているかい

うまれてきたとき、おおきなこえできみが泣いたこと
それをきいたすべての人は笑ったこと。

にんげんは、わすれてしまいうきものだ。

でも、わすれてしまっても、きみはここにいた。

わすれてしまっても おかあさんは命をかけてきみをうんだ。

すっかりわすれてしまっても おかあさんはむじょうけんで
きみを愛した。

だからすっかりわすれても きみはじしんをもっている。

しんじていい。

きみは愛されたから、生きている。



令和元年 10月の保育園だより



坂みみよう保育園

乳児の保育参観・親子触れ合いあそびの会

0~2歳児の各クラスで、生活やあそびの様子を参観していただいた後に、親子での触れ合いあそびの会を下記の日程で開催いたします。ご家族でご参加ください。

日時：10月5日(土) 午前9時~11時

9時までに登園

9時15分~10時(各クラス)

保育参観

10時15分~11時(2Fホール)

『親子で触れ合う体操あそび』

講師 ひなた助産所 助産師

飯塚洋子先生

※11時までに終了しますので、給食は提供しません。幼児クラスに兄や姉のおられる場合は、終了まで保育をしますので担任までお知らせください。

※幼児クラスの土曜日保育希望は、愛情弁当を持参させてください。

70周年記念式典

微妙福祉会創立70周年を迎え10月12日

(土)にグランヴィアホテルにおいて記念式典

を開催します。坂みみよう保育園はグループ園

になって5年目ではありますが、記念誌の発行

もあります。

アートな生活とあそび展

日時：11/2(土) 10時~14時

場所：坂みみよう保育園 ホール(幼児)

2F保育室(乳児)

2F物品バザー《さくらんぼ会》

1F食品バザー

※保護者会さくらんぼ会役員の皆様のバザーにご協力ください。10/1(火)~10/2(水)の2日間バザー用品の収集をします。ご協力をよろしくお願いいたします。

『違いを豊かさに』

~想像力の育成から質の高い保育へ~

おなじりんごを見ても
人によって感じ方はいろいろちがう

わたしは おいしそうって感じる
お姉ちゃんは

ダイエットにいいって言う

おばあちゃんは 入れ歯は

だいじょうぶかしらって思う

りんご農家は

りっぱに育ったなって喜ぶ

白雪姫は また毒が入って

ないかしらって心配する

ニュートンは 地球が引っ張って

いるなって考える

お父さんは お母さんの

ほっぺを思い出す

~『おなじりんごを見ても』

人権の絵本より~

先月21日(土)の幼児の保育参観には、たくさんのご参加ありがとうございました。各クラスとも親子であそびを体験した、にこやかな表情がとても印象に残りました。

同時に開催された家庭教育学級では、造形作家の戸川幸一郎先生より『あそびの中のアート』というテーマで、作品主義ではないアート、つまりあそびの重要性を「クレパスとあそび」を通して講演していただきました。参加の保護者の方は、思い思いのクレパスアートを楽しみながら、クレパスの巻紙を剥がすだけでもクレパスの使い方が広がることで、想像力も広がりそれぞれ違うアート作品ができていました。

「子どもの頃から絵を描くことが嫌いだ。」と言う保護者の方も多かった中、「夢中で無心に遊ぶことがこんなに楽しいことを実感した。」「クレパスはこう使う

という概念にとらわれていた。」「子ども達があそびの中で成長して学んでいることがよくわかった。」「子どもの考えを縛っていたことに気付いた。」「楽しく学ぶことの大切さを感じた。」「子どものしたーい!!を優先し見守るだけで、自ら育っていく力があるのだと気づき、もっとシンプルに育児を楽しみたいと思った。」などのご感想が寄せられ、あそびの中のアート体験を満喫されたようでした。

同じことを体験してもいろいろな感じ方や違いがあるように、子ども達も秋は、試したり、葛藤を乗り越えたりしながら、友だちや身近な人との違いを発見しながら心を通わせる時期です。

保育園では、ドキュメンテーションであそびの様子、違いや変化、個々の子ども達の成長をお知らせしております。子ども達があそびから様々なことを学んでいる様子が見える化することにより、客観的に保育の振り返りができるといえる点では、保育者自身のメリットにもなります。

子ども達の気持ちを理解し対話的に保育を進めるためにも、人権意識を高め命について語り合う上でも、小学校への接続を考え、質の高い保育環境を保障するためにも保育者の想像力は重要です。

今月は子ども達同士、保育者との対話をより深めながら、想像力を磨き合い、生活や遊びを進めて参りたいと思っています。おたより帳とドキュメンテーションの両方では、毎日の更新が難しい場合もありますのでご了承ください。

来月2日(土)は、『アートな生活とあそび展』と『食品バザー・物品バザー』をさくらんぼ会役員さんにご協力をいただきながら開催をいたします。子ども達と職員の想像力が新たな創造を生む学びの様子を感じていただきながら、親子であそびの楽しさを体験できる場にもなればと思っております。ご家族、地域の皆様お誘い合わせの上ご来園ください。

(園長 倉本弘子)